

報告タイトル

1980年代のオランダにおけるクルド系移民・難民の政治運動：オランダ語雑誌を手がかりに
“Kurdish political movement in the Netherlands: Focusing on Dutch-language magazines
in the 1980s”

氏名(所属)

寺本めぐ美(津田塾大学国際関係研究所 特任研究員)
Megumi Teramoto (Research Fellow, Institute of International and Cultural Studies,
Tsuda University)

要旨(800字程度)

本報告の目的は、1980年代のオランダ・ハーグで、トルコの PKK (Partiya Karkerên Kurdistan, 以下 PKK) に共感する政治難民が中心となって出版した『クルド人とクルディスタン (Koerden en Koerdistan)』誌を、同時期の左派系クルド組織が出版した雑誌と比較して、その特徴を検討することにある。両誌とも全ページに渡ってオランダ語が使用されている。『クルド人とクルディスタン』誌は、1982年から1989年にかけて発行され、管見の限り第1号から第5号までが存在する。中東でクルド人が歴史的に居住してきた領域である「クルディスタン」の歴史や政治状況をはじめ、ヨーロッパにおけるクルド系移民・難民組織の活動報告などを掲載している。同誌の特徴を把握した上で、PKK に共感する政治難民が、読者として想定されるオランダ人に何を訴えようとしたのか、特に第一次世界大戦後の歴史的経緯に関する記事に焦点をあてて考察する。

1978年にトルコで設立された PKK は、トルコからの独立や連邦制を標榜してきた。1995年には、その目的を、民主的な自治を行なう独立した統一クルディスタンと階級がない社会の実現に変更した。こうしたトルコにおけるクルド人の政治運動は、クルド系移民・難民の流入に伴い、次第にヨーロッパ社会へ拡大していった。PKK は 1980年代以降、ヨーロッパ各地に関連組織を設立し、ディアスポラのクルド人に影響力を持つことを狙った。本報告は、クルド人による政治運動がヨーロッパに広がりを見せ始めた 1980年代という時期に、オランダでどのような戦略がとられたのか、その一端を明らかにすることで、クルド系移民・難民を PKK に動員される客体的な存在としてのみ捉えてきた先行研究に一石を投じるものである。